

タンパク質ラベル化用酵素基質 (U277)

本発明の実用化・産業応用を目指して、技術移転を受けて頂く企業様を求めます

Description

サンプル中の特定物質の分析において、抗原抗体反応を利用するイムノアッセイは、高感度で特異性の高い方法としてバイオアッセイの中心的な方法として使用されている。しかしながら抗体はタンパク質であり、抗原認識能が失われる欠点がある。そこで、抗体を修飾する技術が必要であるが、これら技術は化学修飾法であり、導入数・導入部位に制約が生じている。

今回、微生物由来で、天然物中に多く存在しているトランスフェラーゼの1種を見つけ出した。本発明は、それら物質を用いて、抗体修飾への応用を試み、タグ導入部位選択的な組換えタンパク質の蛍光標識化である。

Advantage

- ①タグ導入などの遺伝子工学的な組換えを必要としない
- ②抗体そのものへ蛍光基質を導入できる汎用性の高い新規修飾法である

Business Model

研究室において本発明に関する試作、及び基本的な分析の確認はできている。今後は、本発明の実用化・産業応用を目指して、技術移転を受けて頂く企業様を求める。

【本技術の適用産業】

・バイオイメージング、DDS、抗体医薬への応用が期待される。

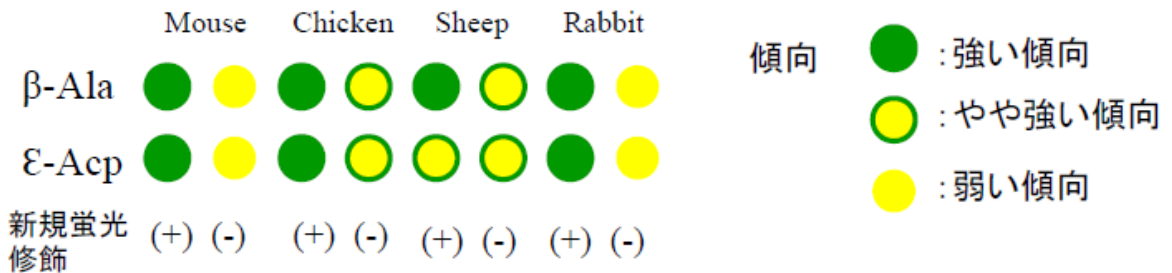
Patent

特願2008-176104

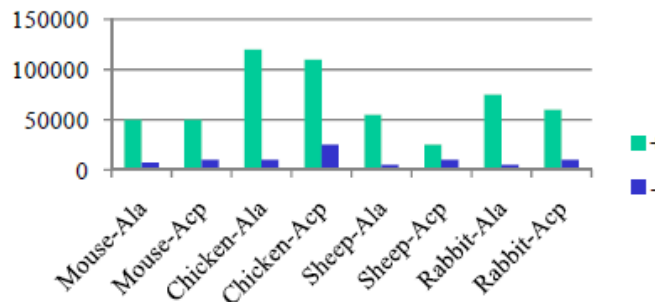
【発明の名称】タンパク質蛍光ラベル化用酵素基質

【発明者】神谷典穂

【出願人】国立大学法人九州大学



図：本修飾を用いた蛍光



図：上記蛍光度合

関西ティー・エル・オー(株)

Kansai Technology Licensing Organization



Contact

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学 産官学連携本部内 関西TLO(株)
TEL (075)753-9150 / (075)353-5890
E-mail : tlo@kansai-tlo.co.jp